

中国株の信用取引 膨張

残高38兆円、1年で5倍

変動幅拡大リスク潜む

上海の証券会社で株
価情報に注目する投
資家ら＝ロイター

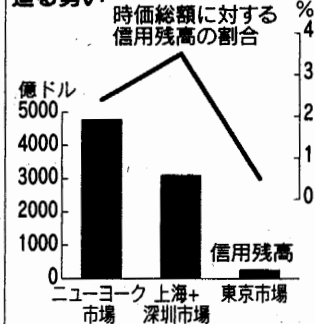
中国の主要な株価指標である上海総合指数は20日、2日連続で上がり、心理的な節目とされる4500台を一時回復した。国によって制度が異なり単純比較は困難だが、中国の主要な株価指標である上海総合指数は20日、2日連続で上がり、心理的な節目とされる4500台を一時回復した。国によって制度が異なり単純比較は困難だが、

【上海＝土居倫之】中国で、株券を担保に資金を借り入れ株式投資にあてる「信用取引」が急拡大している。元手が少なくても多額の株式投資ができるのが特徴だ。上海市場の株価が過去1年間で2倍を超えて上がる原動力となった。だが、信用取引が膨らむ市場は価格の振れ幅が広がる傾向をみせる。成長鈍化の一方で上昇傾向を続ける中国株の相場は不安定化のリスクをはらんでいる。

中国では信用取引が株価上昇を加速させた



中国の信用取引残高は米国に迫る勢い



この信用残高が時価総額に占める割合をみると中国は3.5%、ヘッジファンドが多い米ニューヨーク(2.4%)、日本(0.5%)を大きく上回り、中国では信用取引が株高をけん引する構図が鮮明になっている。世界では金融緩和で証券会社の資金調達コストが下がり、信用取引が拡大しやすくなった。中国でも中国人民銀行(中央銀行)が景気の下支えを狙い利下げを繰り返しても、十分なマネーが实体经济に回らず、信用取引を通じ株式市場に集中しているのが実態だ。証券会社も信用取引の扱いを増やそうとしている。

この信用残高が時価総額に占める割合をみると中国は3.5%、ヘッジファンドが多い米ニューヨーク(2.4%)、日本(0.5%)を大きく上回り、中国では信用取引が株高をけん引する構図が鮮明になっている。世界では金融緩和で証券会社の資金調達コストが下がり、信用取引が拡大しやすくなった。中国でも中国人民銀行(中央銀行)が景気の下支えを狙い利下げを繰り返しても、十分なマネーが实体经济に回らず、信用取引を通じ株式市場に集中しているのが実態だ。証券会社も信用取引の扱いを増やそうとしている。

(注)信用残高はニューヨークが3月末、東京が5月1日、時価総額は4月末の時点

る。投資家にお金を貸し出す際の金利が大きな収益源になるからだ。新規株式公開(IPO)や増資で自己資本を拡充し、貸出余力を大きくする動きが相次いでいる。総資産で中国の証券4位の華泰証券は18日、香港市場への上場計画を発表した。調達額は最大347億香港ドル(約5400億円)で、香港のIPOとしては今年の最高額となる。資本増強分の6割が信用取引向け。「信用取引の急拡大にあわせ、リスクをコントロールする必要がある」と(姜健副社長)というわけだ。

信用取引の増加に伴う大きなリスクの一つは、株価の振れを大きくすることだ。投資家は、この取引を活用する場合、証券会社に手持ちの株式を担保として預け、お金を借りる。株価の下落で担保価値が目減りすれば、投資家は担保の株を追加するか、借り入れたお金を返済しなければならない。そのため株価が急落する局面では投資家が返済資金を確保するための株式売却を迫られ、株安に拍車をかけかねない。これは1月下旬、上海総合指数が1日で7.7%急落した主因になった。

信用取引で証券会社が投資家に貸し付ける資金は銀行が融資する。証券会社が破綻すれば銀行が損失を被る。格付け会社のフィッチ・レーティングは12日「信用取引の拡大で株式相場が銀行の信用力に与える影響が増している」と警告した。中国の信用取引は2010年3月に始まった。それまでは個人が銀行などからお金を借りて株式に投資する例が多く、証券当局の監督対象外だった。これを当局が改め、先進国と同様に信用取引制度の整備を進めた。